

加賀電子本社 屋上ビオトープ 調査・管理報告書

活動日	2024年7月27日	天候	晴れ	活動時間	14:00~17:30
作業者	久保田 潤一、金本敦志、齋田滉大			報告者	久保田 潤一
目的	生物調査、ビオトープ管理、ビオトープ観察イベント				
内容					
<p>【作業内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・ビオトープの写真撮影・水深の確認・生物調査・外来種のチェック・池内の外来植物の駆除・池内の繁茂しすぎた植物の草刈り <p>【生物調査の詳細】</p> <ul style="list-style-type: none">・ビオトープ創出時に導入した生物(ミゾコウジュ)も含め、生息・生育状況の調査を実施。・導入したミゾコウジュは、花期が終わり結実しつつある段階であった。・今回もシヤジクモがビオトープ一面に繁茂していた。本種は環境省レッドリストで絶滅危惧II類の希少種である。・トチカガミがランナーを伸ばし、池全体を、完全に覆いつくしていた。・前回まで、アジアイトトンボの可能性が高いていたイトトンボ科の一種は、アジアイトトンボと確定した。・イトトンボ科の幼虫(ヤゴ)を確認した。現場で種の確定には至らなかったが、アジアイトトンボ成虫の出現を確認したため、同種の幼虫である可能性が高い。・新たな出現種として、ホルバートケシカタビロアメンボを確認した。体長1.3~1.8mmの非常に小さなアメンボ類である。・人家の外壁などでよく見られるアダンソンハエトリを確認した。・外来種として、キマダラカメムシの成虫を確認した。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none">・一部でアオミドロが増えていたため、除去を行った。・水深が浅いエリアでは、抽水植物の繁茂によって水面が見えにくい状態となっていた。そのため、根際部分から刈り取る管理作業を行った。一部は刈り取らずに残し、生物の生息に配慮しつつ水面が見える状態にした。・トチカガミが繁茂しすぎて水面がまったく見えない状態となっていたため、大幅な間引きを行った。・外来種のニワゼキショウは、引き抜きによって駆除した。・ビオトープの調査・管理作業後、社員家族を招いてのビオトープ学習会・観察会を実施した。					



No. 1

撮影日：2024年7月27日

撮影場所：加賀電子屋上ビオトープ

解説

管理作業前。

ビオトープ全体に植物が繁茂し、水面が全く見えない状態。



No. 2

撮影日：2024年7月27日

撮影場所：加賀電子屋上ビオトープ

解説

管理作業後。

抽水植物は一部を除いて刈り取りを行った。トチカガミも大幅に間引きを行った結果、水面が見えるようになり、景観も改善した。



No. 3

撮影日：2024年7月27日

撮影場所：加賀電子屋上ビオトープ

解説

前回まで、アジアイトトンボの可能性が高いとしていたイトトンボ科の一種は、アジアイトトンボと確定した。



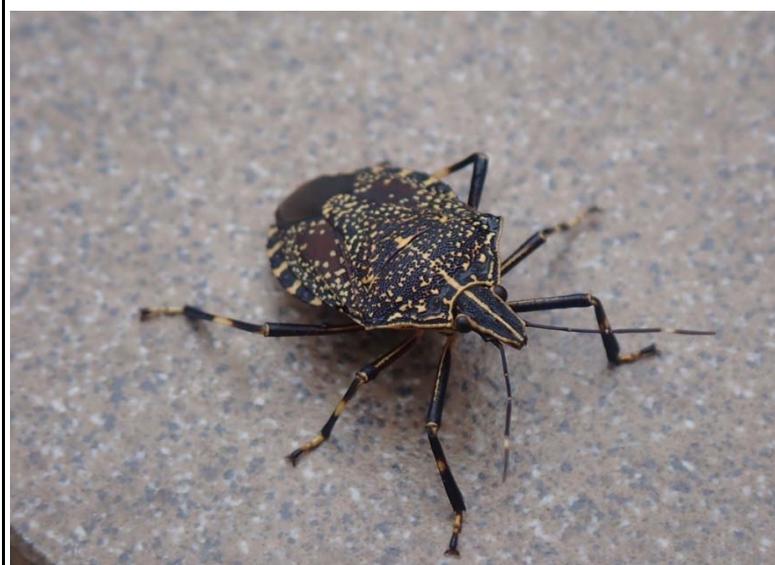
No. 4

撮影日: 2024年7月27日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

ホルバートケシカタビロアメンボを確認した。体長1.3~1.8mmの非常に小さなアメンボ類である。



No. 5

撮影日: 2024年7月27日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

外来種のキマダラカメムシの成虫を確認した。



No. 6

撮影日: 2024年7月27日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

在来種のサンカクイ。茎の断面が三角形であることから名がついた。



No. 7

撮影日：2024年7月27日

撮影場所：加賀電子屋上ビオトープ

解説

水田雑草として有名なコナギ。



No. 8

撮影日：2024年5月30日

撮影場所：加賀電子屋上ビオトープ

解説

ビオトープと野生生物に関する学習会の様子。



No. 9

撮影日：2024年5月29日

撮影場所：加賀電子屋上ビオトープ

解説

ビオトープでの観察会の様子。網と虫かごを用いて、参加者が捕獲にチャレンジした。

加賀電子本社屋上ビオトープ 確認生物リスト

※今回調査での確認種に青色をつけています

分類	種名	経緯 ※別表1	希少性 ※別表2		外来種	備考	確認記録 2023年度			確認記録 2024年度		
			環境省	東京都 区部			7/10	7/29	10/10	5/29	7/27	
	キマダラカメムシ				○						○	
昆虫類	ヒメアメンボ	自然飛来					○	○				
	ミズギワカメムシ科の一種	自然飛来						○				
	ホルバートケシカタビロアメンボ	自然飛来									○	
	アジアイトトンボ	自然飛来				成虫、幼虫を確認			○	○	○	
	シオカラトンボ	自然飛来				幼虫を確認	○			○	○	
	オオシオカラトンボ	自然飛来					○	○				
	ショウジョウトンボ	自然飛来				幼虫を確認		○	○	○		
	ウスバキトンボ	自然飛来						○				
	コカゲロウ属の一種	自然飛来					○	○				
	ヒメカメノコテントウ	自然飛来							○		○	
	ダンダラテントウ	自然飛来							○			
	トゲバゴマフガムシ	不明					○					
クモ類	アダンソンハエトリ										○	
植物	ミゾコウジュ	導入	NT	VU		開花を確認	○	○	○	○	○	
	シャジクモ	発芽	VU	VU			○	○	○	○	○	
	コナギ	発芽						○	○		○	
	ツユクサ	発芽						○	○			
	アゼナ	発芽									○	
	アメリカアゼナ	発芽			○			○	○			
	ニワゼキショウ	発芽			○	2024/5/29に駆除				○		
	エノキグサ	発芽							○			
	トチカガミ	発芽	NT	EX				○	○	○	○	
	ガマ科の一種	発芽								○	○	
	フトイ	発芽							○	○	○	
	イグサ科の一種	発芽									○	
	サンカクイ	発芽									○	
	カンガレイ	発芽		VU					○		○	
	カヤツリグサ	発芽							○		○	
	タマガヤツリ	発芽							○			
	ミコシガヤ	発芽		NT						○		
	カヤツリグサ科の一種	発芽					○	○	○	○		
	メシバ	発芽							○			

※確認記録 ○:調査で確認 △:聞き取り等で確認

別表1 経緯について

導入	ビオトープの質の向上等を目的に、意図的に導入した生物
非意図的導入	土や水草などの移植に伴い、意図せずに入ってきた生物
自然飛来	ビオトープ創出後に周辺から自力で移動してきた生物
遺棄・放流	飼育されていたペットや園芸種などが捨てられたり、放流されたりしたもの
発芽	ビオトープに導入した土から自然に発芽した植物

別表2 希少性の表記について

表記	カテゴリー名称	基本概念
EX	絶滅	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培下も含めすでに絶滅したと考えられるもの
CR	絶滅危惧IA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN	絶滅危惧IB類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
CR+EN	絶滅危惧I類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
VU	絶滅危惧II類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
NT	準絶滅危惧	現時点での絶滅危険性は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD	情報不足	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得
.	非分布	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの